

やり抜く力の性差および世代差の分析

○橋本博文¹・前田楓²

(¹安田女子大学心理学部心理学科・²安田女子大学大学院文学研究科)

目的

本研究の目的は、大学生を対象として作成された日本語版 Grit 尺度(西川, 奥上 & 雨宮, 2015)を用いて、やり抜く力にみられる性差や世代差を分析することにある。米国の調査(Duckworth & Quinn, 2009)においては、やり抜く力と年齢の間に正の相関が示されている。本研究では幅広い年齢層を対象とするウェブ調査を実施するかわり、日本においても同様の相関が示されるか否かを分析する。

方法

調査会社クロスマーケティングを介して、成人 800 名(男性 400 名, 女性 400 名)に回答を依頼した。本研究では、異なる年齢層の比較を目的としているため、世代(20代, 30代, 40代, 50代, 60代)と性別(男性, 女性)が均等になるようにサンプリングを行った(平均年齢は 44.77 歳)。調査対象者には、やり抜く力を測定するための Grit 尺度(「始めたことは何であれやり遂げる(根気尺度)」, 「いったん目標を決めてから、後になって別の目標に変えることがよくある(逆転項目, 一貫性尺度)」など)計 8 項目に回答してもらった(5 件法; 1=あてはまらない, 5=あてはまる)。その他にも、調査対象者には性別や年齢, 教育水準などを尋ねた。

結果

信頼性係数 Grit 尺度の α 係数は 0.75 であった。下位尺度ごとに α 係数を算出したところ、根気尺度(4 項目)は 0.86, 一貫性尺度(4 項目, 逆転処理後)は 0.80 であった。両尺度の得点の相関係数は $r = 0.10$ であった。

年齢・性別・教育水準と Grit の関係 Grit 尺度の得点を目的変数, 年齢, 性別ダミー(男性, 女性), 教育水準ダミー(中卒, 高卒, 専門学校卒, 短大卒, 大学卒・大学院卒)を説明変数とする重回帰分析(強制投入法)を行ったところ, 年齢($\beta = .20, p < .001$), 性別ダミー($\beta = .07, p < .05$), 教育水準ダミー($\beta = .11, p < .01$)の主効果がそれぞれ有意となった。これらの結果は、年齢が高いほど、そして教育水準が高いほど、Grit 尺度の得点

が高くなる傾向を示している。また、男性よりも女性の方が Grit 尺度の得点は高い水準にあった。

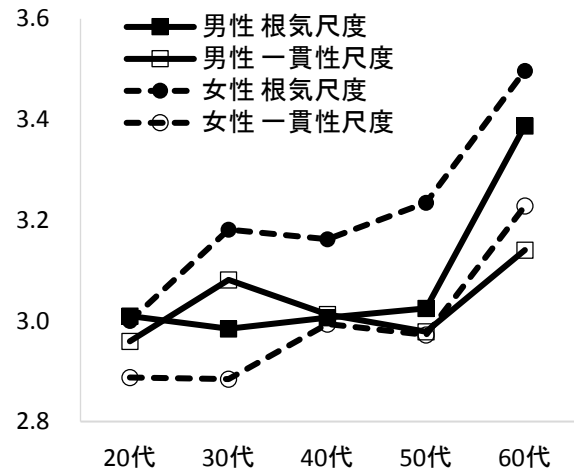


Figure 1 世代と性別ごとの根気・一貫性尺度の得点

下位尺度(根気・一貫性尺度)ごとに同様の分析を行ったところ, まず根気尺度を目的変数とする分析においては, 年齢($\beta = .18, p < .001$), 性別ダミー($\beta = .09, p < .01$), 教育水準ダミー($\beta = .13, p < .001$)の主効果がそれぞれ有意となった。一方, 一貫性尺度を目的変数とする重回帰分析においては, 年齢($\beta = .11, p < .01$)の主効果のみが有意であり, 性別ダミー, そして教育水準ダミーの主効果は有意ではなかった(Figure 1)。

考察

若年層よりも老年層の方がやり抜く力が強いという結果は, 米国における先行研究とおおむね一貫する結果である。しかし先行研究においては、やり抜く力と性別の関係について議論されていない。日本人の幅広い年齢層を対象とする本研究の結果は, Grit 尺度(とくに, そのうちの根気尺度)において, 明確な性差と世代差, そして教育水準の差を示すものであった。今後の研究においては, まず, 男性よりも女性の方がやり抜く力が強いという結果の頑健性を検証する必要がある。また, 望ましくは縦断的データ等を収集するかわり、性差と世代差のより詳細な分析を行う必要がある。そしてそうした差異を生じさせる要因についても検討を行うべきである。